

近年府内で発生を警戒している病害虫

■ トマトキバガ (令和5年府内で確認)

- 成虫(図1)は体長5~7mm。翅は灰褐色で、黒色のまだら模様が散在する。
 - 幼虫(図2)は約8mm。淡緑色~淡赤白色で、頭部は淡褐色。頭部のすぐ後ろに細い黒色横帯がある。
 - 成虫は夜行性で、日中は葉の間等に隠れていることが多い。卵は葉の裏面などに産み付けられ、幼虫は土中や葉の表面で蛹化する。
 - 1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。
 - トマト、なす、ピーマン、とうがらしなどのナス科植物で発生する。
- トマト果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空くとともに腐敗するため、品質が低下する(図3)。
 - 幼虫が茎や葉の内部に潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白~褐変する(図4)。



図1 成虫 (府内確認個体)



図2 幼虫



図3 トマト果実の被害



図4 トマト葉の被害

※図2~4: 出典「植物防疫所Webサイト」
無断転載を禁ずる。